

渋沢栄一

(1840-1931)

新紙幣への採用や大河ドラマ「青天を衝け」で注目が集まる渋沢栄一。「日本資本主義の父」と呼ばれ、多くの会社を起業・経営し、多方面での社会貢献でも知られています。

豪農の長男に生まれた栄一でしたが、20代以降は一橋家家臣、幕臣、駿河(静岡)藩士、新政府役人そして民間人と目まぐるしく立場を変え、波乱万丈の前半生を送りました。

本展示では、松平文庫の資料を手がかりに、渋沢栄一の前半生の足跡をたどります。